



神の島で 神を思つて 舞う

壹 岐には神社庁登録の神社百五十一社をはじめ、小さな祠や神社が多数点在していて、「神の島」とも呼ばれている。ほとんどの神社で毎年神楽が奉納されるため、島の人たちは幼い頃から神楽に慣れ親しんでいる。

壹岐神楽は一四三五年にはすでに舞われた記録があり、その伝統は現在に至るまで受け継がれてきた。壹岐神楽の最も大きな特徴は舞も音楽もすべて、神職のみで行うこと。しかも継承は口伝で行われてきた。全国でも稀に見る神事芸能であることから、国の重要無形民俗文化財にも指定されている。

現在、島内の神職は二十八名。そのわずかな人数で毎年、百五十以上の神社へ神楽を奉納し、年に一度行われる大大神楽では、七時間に及ぶ舞を奉納している。住吉神社の禰宜で、壹岐神楽保存会の

事務局長を務める川久保貴司さんは「口伝ですすから、覚えるのは簡単ではありません。しかし一年の半分くらいは神楽を奉納していますから、その本番の積み重ねこそが力になっていきますね」と話す。壹岐神楽は畳二畳のスペースで舞うのが決まり。舞人が四人でも、寝転んだり、飛び跳ねたりとアクロバティックな動きをする場合でもそれは守られるというから、足運び一つとして間違うわけにはいかない。

舞を覚えたら、笛を覚え、太鼓を覚える。それだけでなく山から竹を切ってきて、笛も自分で作る。面も古いものになると四百年前のものであるそうで、欠けても修復しながら大切に使っているという。

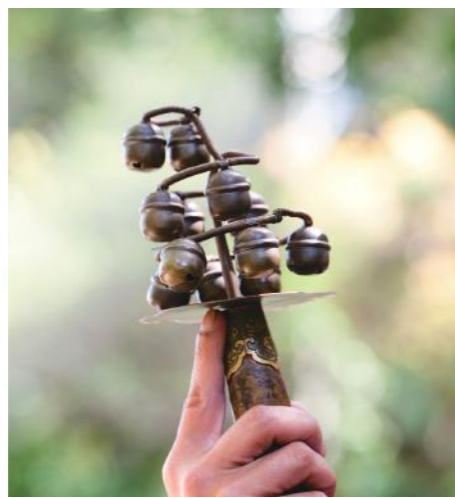
神楽は本来、神様に奉納するものだが、近年は壹岐の発展のためにと、保存会の若手メンバーが中心となって観光客の前でも披露するようになり、注目を集めている。しかし彼らはどこの舞台上にがろうとも五穀豊穡を願い、神を思つて舞うのだから。「息子が壹岐神楽を継いでくれたら嬉しいですし、神楽をずっと続けていきたいですね」と話す川久保さんの言葉がその証のように思えた。

壹岐神楽保存会

壹岐市芦辺町住吉東触470-1
TEL.0920-45-3002
(鑑賞予約受付)



壹岐神楽保存会の事務局長
川久保貴司さん



見上神社の宮司、大寶浩さん(左)



住吉神社

